

みさかえの園だより

第 30 号

2022年(令和4年)7月

発行所

社会福祉法人 聖家族会

発行責任者 西村和子

編集 広報委員会

☎859-0167長崎県諫早市

小長井町遠竹2727番地3

☎ 0957 - 34 - 4520

FAX 0957 - 34 - 4521

平和への祈り

社会福祉法人

聖家族会

理事長

西村 和子

はじめの一言

みさかえの園の施設長・事務長会議の終わりに一人の施設長が、「ポーランドに多数のウクライナ避難民が入ってきているようですが、シスター達の会のシスターもポーランドにいるのではないですか。コルベ神父様や、みさかえの園の創立に全力を注いだミロハナ神父もポーランド人でないですか。」と言われました。

それらの事からポーランドを通してウクライナの避難民を助けることができないかとの話が出ました。全施設からの献金が集まりました。そうしている佐賀にある社会福祉法人からの問い合わせがあり同じ事を伝えました。そのうち他の修道会からの問い合わせがあり、少しずつ範囲が大きくなっていました。

「キリストの母マリアの心で、心身において助けを必要としている

人々の傍らに寄り添う」(みさかえの園聖家族会基本理念)

この言葉が職員の皆様のの中に生きていることを確信し、とても嬉しかったです。

送金したおかげは、兵器のためではなく、ウクライナ人直接のためにポーランドの他の修道会とも分け合って支援に使ったとのことでした。

教皇フランシスコの兄弟の皆さん

『どの戦争も必ず、世界をかつての姿よりもいっそう劣化させます。

戦争は、政治の失敗、人間性の欠如であり、悪しき勢力に対する恥ずべき降伏、敗北なのです。理屈をこねるのはやめて、傷に触れ、犠牲者からだに触れようではありませんか、「巻き添え被害」で殺戮された無数の民間人を、しっかり見つめようではありませんか。犠牲者に尋ねようではありませんか。避難民、被

爆者や化学兵器の被害者、わが子をなくした母、手足を失った子が伝える真実に意識を向け、彼らの目を通して現実を見つめ、開かれた心で彼らの話に耳を傾けようではありませんか。そうすれば戦争の根底にある悪の深淵に気づけるようになり、平和を選ぶことで愚直だと言われるようにとも動じることはないのです。』(教皇フランシスコ 回勅 兄弟の皆さん 261)

地球家族として

今も戦争があっています。日本は完全に孤立した島国で国境もはっきりしていて、他の国とつながっていない。しかし大きな大陸の世界は国の境が日本の県境のようで、そこに関門所があるように思える。そこを通り抜ければ隣国。

普通にバスでも、乗用車でも通過できる。多くの場合人間の容姿も似ている。

しかし言語が違っていることが多い。

どこかで戦争が起きると、世界の問題となる。ロシアは沢山の地下資源を持っている、それらを買わない・使わないとなると大きな問題になる。ウクライナは小麦とトウモロコシなどの生産地として有名である。ウクライナの穀物を輸出するための黒海沿岸を封鎖してしまったのです。

世界的な食糧危機と食料の価格上昇の状態です。4〜10億人の飢餓が脅威にさらされているとも言われています。

神様は、世界中どこでも同じ状況に作っていない。ある所は果物が良

く採れ、ある所では地下資源の石油、ガスが沢山あるなど。神様はみんなが分け合って生きていくように作られたと思います。

太陽と北風

太陽と北風というイソップ童話を思い出します。北風と太陽が一人の紳士のコートを脱がせた方が勝ちであるという競争をしました。

北風は自信満々でビュービュー北風を吹かせコートを吹き飛ばそうとしました。しかしこの紳士は身を縮め、しっかりとコートを握り離そうともしませんでした。太陽は温かい気持ちのいい温度を与えました。体を伸ばし、しがみつこうように持っていたコートの手を放します。そしてじわじわと温度を上げていくと、暑いのでコートを脱ぎました。

この童話を思い出したのは今のロシアは世界中からの北風が吹き荒らされていて、意固地に縮みあがっているのではないのでしょうか？太陽の明るい温かみを感じ取り心が広がることを願っています。

平和の元后 聖母マリア

平和であることは、すべての人の願い、しかしその平和も自分だけの独りよがりであれば、その平和は来ることがないでしょう。

「キリストの母マリアの心で、苦しんでいる人々に寄り添いたい」と、誰かがはじめの一声が必要なのではないでしょうか？その一声が静かに波紋のように広がり、中心を変えていくことができますように祈りつつ

夢と希望に向かつて

デイスペースあん 徳久 加奈美

デイスペースあんでは、利用者様が制作した作品を商品として販売する取り組みを行ってきました。個性豊かなデザインが生かされたカード、ポチ袋、キーホルダーは、特に好評をいただいております。デイスペースあんの新たな事業として軌道にのりつつあります。

そこで、今回さらに時代に合った作品に展開しようと、「商品開発部」を立ち上げ、新たに活動を開始しました。利用者様の持ち味を活かし、ひとりひとりの個性を、かたちにしていける事を目標にしています。初めての試みではありますが、ワクワク、ドキドキしながら、計画しています。

わくわく活動班ではまずは、利用者様の絵画をワンポイントとして取り入れた、布製のバッグを商品化しました。絵画作品は活動の中で描いた一枚です。利用者様が、心を込めて描いた絵が、作品になった事で、他の利用者様も「私も頑張ろう」「私の絵も使ってもらいたい」など、今



まで以上に目的を持って活動に参加されるようになり、希望に満ち溢れています。

他に、貼り絵の得意な利用者は、出来上がった作品を写真に撮り、商品化できるよう計画中です。今後も、バッグの他に利用者様同士のコラボレーション作品や、Tシャツ、昨年好評のダイアリー、ノートの新開発にも力を注いでいきます。

ほっこり班活動に参加される利用者様は、みんなで力を合わせてできる事の取り組みとして、野菜作りに挑戦しています。「SDGs！環境に優しい朝採れ野菜」として販売しています。卵の殻を集めたら、すり鉢で交替しながら細かくすりつぶしていきます。また、お茶殻を乾燥させた物と混ぜ合わせ、デイスペースあん特製！栄養たっぷりの土の出来

上がりです。野菜を植える際や、肥やしとして使用しています。また、本格的な野菜作りは初めての挑戦という事で、地域の利用者の家族の方に直接足を運んでもらい、アドバイスを伺いながら一緒に取り組んでいます。

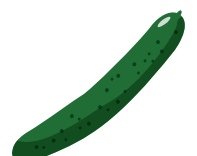
散歩に出かけ、交代で水やりを行い、「大きくなってきたよ！」「もうすぐ収穫できるね」

「採れたよ！」と、みんなで成長を見守り、収穫できる喜びに繋がっています。

収穫した朝採れ野菜は、サテライトや、むつみ売店で販売しています。

また、利用者様のご家族と一緒に協力しながら、花を挿し木にして育てています。多肉植物も少しずつではありますが、商品化に向けて準備中です。

地域活性化の実現に向けて夢と希望を持って新たに動き出したデイスペースあん！これからも、今できることに着目し、今後更なる展開に希望を乗せて前進していく商品開発部に乞うご期待！



平和について思うこと

みさかえの園あゆみの家

施設長 平松 公三郎

ロシアによるウクライナ侵攻のニュースは、戦争という無慈悲な力によって世界が変わっていく姿を私たちに容赦なくみせつけています。今までになく、身近にある平和の有難さを思わずにはいられません。

あゆみの家に集う利用者の方々の日常活動には、それぞれの澄んだ笑いがあります。それは、周りの私たちにも明るい気持ちをもたらしてくれます。この笑いのある日常をすごすことができているのも、平和があつてこそのものであらためて感じています。

被ばく孤児であつた聖母の騎士修道院の修道士の小崎登明さんは飾らない言葉で自らの被ばく体験を語り部として伝えられてきました。今日のウクライナ状況を見聞きするにつれ、小崎さんの残された「平和は赦(ゆる)しの中からしかない」という言葉が響いてきます。心からの平和には、他者へのゆるし、自らへのゆるしが必要だということだと思っています。ロシアと西欧諸国の対立する関係が一刻も早く解消することを願います。そして「ゆるし」によって憎しみが消え、心からの平和が世界中に再びおとずれることを願います。この地球のどこにおいても、共に笑いの中で日々生活ができるようになることを切に願います。

共生社会を目指して

生活支援科長 坂本 大樹

神奈川県相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」の利用者四十五名が殺傷された悲惨な事件から六年の月日が経とうとしています。

当時私は、あゆみの家に勤務して一年が経ち、ようやく環境にも慣れ仕事に遣り甲斐を感じ出した頃で、テレビで報じられる事件の詳細に只々驚き何もできない自分に無力さを感じていたことを記憶しています。

数年の月日が流れ、各地で開催されている共生フォーラムに参加することになり、津久井やまゆり園事件を通して多様な見方や解釈のある「共生社会」という大きな課題について考えさせられました。恥ずかし

ながら、この機会をいただくまでは自分の中で過去の出来事として処理していた部分があつたと気づき、何かできることがないかと模索しましたが、私個人ができることはわずかだと割り切り、事件を風化させないよう対話するきっかけづくりから始めようと考えようになりました。また、児童の自殺者が年々増加している現状もあり、こどもたちが加害者や被害者にならないよう「いじめ問題」を通して人権について一緒に学ぶ機会を設けています。難しく考えようと何も行動できなくなるので、ハードルを下げ「できることからやる」という好循環が生まれることを切に願います。

新年の集い

今年一年はこの行事から始まりました。あゆみの家内の〇×クイズ。日頃何気なく見ているものでも皆さん悩みました。

節分の集い



今年の年男・年女は3名です。鬼当てゲームでは、お手玉を使って鬼を倒しました。なかなか倒れない頑固な鬼もいて、何度何度度も投げたり時には蹴ったり...

たり...

年女の方からゲーム景品と「福」を頂きました。

ひなまつり

参加できるのは女性だけです。白熱を繰り広げたひし餅運びリレー。ビニール袋でできた三色のひし餅が滑り落ちるたびに盛り上がりしました。



復活祭

卵の絵付けをし、御復活ミサで川口神父様に祝別をしていただきました。世界平和を祈って...。イースターエッグは美味しかったです。



あそびのひろば

長崎県では、5月5日から11日の一週間を児童福祉週間と定められています。



今年度からあゆみの家でも遊びの場の提供というこ

とで、「あそびのひろば」を開催しました。絵本、おもちゃ、ボールプール、こいのぼり制作コーナーを設置しました。



療育サービス支援科 松本 昌子

ワークスペースあん

ご挨拶

ワークスペースあん
所長 田中 伸一

令和4年4月から「みさかえの園のぞみの家」の施設長と兼務になりますが、廣沢所長の後を引き継ぎ「ワークスペースあん」の所長となりました。

社会福祉法人聖家族会に入職して4年目になりますが、就労継続支援事業所の仕事は初めてなので分からないことばかりですが、職員の皆さんや利用者の皆さんにいろいろ教えてもらいながら頑張りたいと思います。

コロナ禍で大変な状況ではありますが、利用者の皆さんが「働く」ことを通じて喜びや生きがいを味わい、豊かな生活を送れるよう支援を行っていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

〈 1/24 送迎バスが新しくなりました 〉



送迎区間（月～金：諫早ロータリーまで運行中）

- ・メリットを紹介します
 - ①窓が広く開放感がある
 - ②シートの座りごちが良い
 - ③シートベルトが着けやすい
 - ④補助ステップ付きでバスの乗り降りがしやすい
- ・利用者さんに快適な送迎サービスが提供できるよう安全運転に努めて参ります。

〈 4/4 春の会 〉 みさかえグラウンド・大浦ダム



- ・新年度明け初日の恒例行事です。毎年、桜の開花時期が早まりタイミングが合わないのが残念な状況です。桜吹雪を浴びながらお弁当を頂いた後は、近くの大浦ダムまで散策です。



〈 5/25 日帰り旅行 〉 長崎市恐竜博物館・女神大橋（散策）



- ・今回、久々の外出（遠出）となり喜びもひとしおです。恐竜図鑑と見比べながら見学したり、恐竜時代に思いをはせたり、チョッピリ怖かったり……



新しい所長さんにまだまだ利用者さんも気恥すかしさを感じているようです。新たな出会いに感謝して「いごちの良い事業所」を目指したいと思います。

（サービス管理責任者 門脇 直子）

納得するまで

みさかえの園めぐみの家

施設長 齋木 初江



この度、増築リフォーム工事が無事に終了いたしました。今回の工事にあたり、担当職員は利用者様の重度・高齢化、発達障害、身体障害等を考慮し、「納得するまで」建築設計の方や現場責任者の方たちと話し合いを行いながら工事終了までみっちり確認を行いました。反対にこちらが「ここまで考えるのか!」と驚かされることもあり、とても貴重な時間だったと思います。今回の工事にいろいろな立場で携わってくださったすべての方々に感謝申し上げます。特に建築に関しては素人の我々に「納得するまで」適切なアドバイスをしてくださったM様にはた

ただただ感謝しかありません。本当にありがとうございました。

ちなみに増築工事を機に、施設名を「第二めぐみの家」から「めぐみの家」に変更いたします。今後も皆様に愛される施設を目指して職員一同、利用者様のために全力を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

マリアさまの賛美

みさかえの園めぐみの家

生活支援員 黒田 千尋

色とりどりの花々が咲き乱れる5月はマリアさまの月です。私たちは週に3回、聖マリアの連祷やマリアさまの歌を歌い、祈りをお捧げしてきました。5月9日には皆が集って「コロナが収束しますように」「世界が平和になりますように」「私たちのお母さんのために」という意向でロザリオの祈りを唱え、折り紙で作った鶴をまき、マリアさまを賛美いたしました。ロザリオの祈りについては職員にも「主の祈り1回」「アヴェ・マリアの祈り10回」「詠唱1回」の一連を5回繰り返して黙想しながら唱えることを説明しました。

さらにネットで調べると「イメージとしてバラの花を1本ずつ摘み、花束にして聖母に捧げ、とりなしを願うもの」と書かれていました。マリアさまに感謝の花束を捧げる気持ちで、利用者様と職員が一つとなって「聖母賛美」を行いました。「マリアさま、いつもありがとうございます。どうぞ私たちの祈りを聞き入れてくださいますように!」

イエスさまの復活

みさかえの園めぐみの家

生活支援員 太田 敏枝

とあるお店に行った時「イースター祭り」という場所が設定されていて、いろいろな装飾品が販売されていました。それを見ながら当施設も「ご復活祭をお祝いするなあ」と思いましたが、今までそのことに関してはくわしく知りませんでした。なので、復活についての話をスタッフや信者様に尋ねたところ、イエスさまが起こした一番の奇跡が『イースター』であり、クリスマスより重要とされる祝祭とのことでした。

ひよこが卵の殻を破ってこの世に

誕生するように、イエスさまも死という殻を破って復活されました。そこで、皆様にも幸福がたくさん訪れ喜んでいたけると、今年はこのような「ひよこ」を心を込めて編みました。かわいいでしょ!



栄養士としての役割

みさかえの園のぞみの家

管理栄養士 中村 真美

私は、昨年の九月にこちらに入職しました。それからの半年はあつという間に過ぎ、最近は利用者様が私の名前を覚えて呼んで下さったり、食事のことをお話ししたりと、以前よりコミュニケーションが増えてきました。「今日のご飯は何?」「美味しかったよ。」「このメニューが一番好きだよ。」と笑顔で話しかけてくれた時や私がホワイトボードに記入した献立表を一生懸命見ている姿から、利用者様にとって食事がどれほど楽しみな事であるかが伝わってきます。

私は、管理栄養士として利用者様に食事を提供する中で、『味・栄養価・安全性』の三つを意識しています。特に『安全性』に関しては、衛生管理をしっかりと行うという意味もありますが、誤嚥や窒息の危険性を無くすという意味でも、今後重視すべき部分です。のぞみの家の利用者様も年齢と共にADL(日常生活動作)や嚥下機能が変化していきますが、その変化を敏感に感じ取り、安全に食事が摂れる環境を、多職種で協力して作っていききたいと思っています。

利用者様の中には、きつい、痛い、苦しいなどの訴えが難しい方やその感覚が分からず周りが変化に気づいた時には症状が悪化しているという方もいらっしゃるかと先輩方から教えていただきました。私自身、日々、利用者様の食事摂取状況を観察していく中で、そこを汲み取っていくのは容易ではないと感じます。利用者様一人ひとりと向き合い、障害特性や病歴、性格、食事動作の観察などを先輩方に学びながら、私が管理栄養士としてできることをこれからも考えていきたいと思っています。

そして、利用者様の笑顔がいつまでも続くように、施設における管理栄養士としての役割を自覚し、責任を持って健康面、栄養面でサポートすることができるよう頑張っています。



新しい買い物の楽しみ方

ここ数年間は、新型コロナウイルス感染症のため、外出行事が中止されており、外部の業者に来て園していただく形で、お楽しみショッピングを開催しています。

また、年々、のぞみの家の利用者様も障害の重度化が進んでおり、半数以上が車椅子を使用している現状があります。そのような中で、車椅子の利用者様が安心して外出できる場所を探すことに職員は日々頭を悩ませています。職員の配置をいつも以上につけなければならぬ等、簡単には解決できない問題もあり、その点、業者の方が来園して買い物できる環境を提供してくれる新たな方法というのは画期的で有難いことです。

利用者様の障害程度に応じた対応が早急に求められる中、外出という楽しみを一部の利用者様だけではなく全体的に提供でき、喜びを共有できるということは、支援の幅が広がることでもあります。コロナ禍で、地域との交流が疎遠になっていますが、これまでとは形を変えて、地域へ出向くのではなく、迎え入れる側に立って触れ合う機会を持つことも大切だと感じています。

お楽しみショッピングの様子



大きなあれ、 おいしくなあれ

みさかえの園児童発達支援センター

介護福祉士 井田 亜希子

今年もセンター菜園が始まりました。4月下旬、ワークスペースあんより購入したきゅうり、ミニトマト、おくら、ピーマンの苗をプランターに植えました。苗植えの際には、スコップを利用者と一緒に持ち穴を掘ると、思わず手に力が入り土が周りに飛び散ったり、苗を手で触れるとサツと手を引っ込める方、微動だにしない方様々ですが、その瞬間毎に賑やかな歓声が上がります。苗植えが終わると、次は天気の良い日に利用者と一緒にほぼ毎日水やりを行います。「大きなあれ」「おいしくなあれ」と愛情いっぱいの水やりでミニトマトときゅうりはグングン育ち、支柱を立てたり、わき芽かきを行います。ミニトマトの葉っぱを鼻に近づけると、青臭い匂いに不思議そうな表情や思いっきり払いのける方と表現方法は様々ですが、野菜の成長をいつも利用者の方と一緒に確認し、喜びを共有しています。

今では、ミニトマトは見上げるほど大きくなり、「どこまでのびるかなあ」と話し、小さい実がなり始めると、今度は「収穫の時手がとどかないね」と心配する程成長しています。きゅうりも黄色いかわいい花を咲

かせ、葉っぱは顔よりも大きく育ちすでにスーパーに負けないくらい立派な物を数本収穫しました。初物は1本の収穫でしたので、帰りの会で争奪戦を行いました。8人の利用者に8本の紐を準備し、紐の先にはきゅうりが1本！さて、どの紐にきゅうりがついているのか紐選びも真剣です。一人一人その方なりの選び方で紐を選んでいただき、一斉に引く手にも力が入ります。見事ゲットした利用者と共に喜びあい、家族の方からは、次の日に「おいしかったです」と連絡帳に嬉しいコメントがありました。

これからの収穫の度に帰りの会では様々な方法で争奪戦が行われ、利用者の方の嬉しそうな表情を見られることが楽しみです。また、今年は野菜の他に色とりどりの花も植えました。センターの中庭は野菜やお花に水やりをしながらシャボン玉遊び等で楽しむ声が響いています。皆さんも是非、センター菜園とかわいなお花達を見に来てください。



楽しいわくわく広場を目指して

諫早子どもデイサービスわくわく広場

児童指導員 山口 慶子

わくわく広場には、現在2才〜8才までの子どもたちが療育を受けに来ています。わくわく広場に来る子どもたちは、家や保育園等で過ごしたにくかったり、困っていたりします。わくわく広場では、子どもが「できた！」「やった！」「楽しい！」と思えるような活動をチームで考え提供しています。また、保護者様と子どもの出来たことや、頑張っていることを共感し、家庭での悩みを共有すること、子育て支援の一端を担っていると思います。

放課後等デイサービスを利用している子どもたちも、利用当初は、人との関わりが苦手、物の取り合いをしていたり、勝ち負けにこだわったりしていました。今では、物を譲り合ったり、鬼ごっこを仲間と楽しんだり、お友達と遊ぶことを目的にして来てくれるようになっていきます。また、保護者様は子育ての不安を抱えて利用開始され、利用を重ねるごとに、子どもと向き合えるようになり、子どもの愛らしさを感じることで、子育ての楽しさに繋がったと思います。

私は、わくわく広場に異動して3



年目を迎えました。異動当初は、活動後に保護者様と話す時間がとても緊張していました。今では、子どもたちが活き活きと頑張っている姿や出来たことを保護者様と共感し喜びあうことが、仕事の原動力となっています。

子ども達の苦手意識や不安を、達成感や自信に変えることができた時、子どもの嬉しい笑顔だけでなく、保護者様の笑顔にも繋がりと、笑顔の輪が広がる支援をしていきたいと思っています。今後も、子どもたちが「おはよう！」「こんにちは！」と明るい声で来てくれる、楽しい笑顔溢れるわくわく広場を目指していきたいです。

令和3年度 決算報告

貸借対照表

令和4年3月31日現在

科 目	金額(千円)
資産の部	
流動資産	2,410,694
固定資産	9,079,792
(基本財産)	4,217,130
(その他の固定資産)	4,862,661
資産の部合計	11,490,486
負債の部	
流動負債	311,149
固定負債	10,634
負債の部合計	321,783
純資産の部	
基本金	690,604
国庫補助金等特別積立金	144,340
その他の積立金	3,183,545
次期繰越活動増減差額	7,150,214
(うち当期活動増減差額)	△ 6,928
純資産の部合計	11,168,703
負債及び純資産の部合計	11,490,486

事業活動計算書

自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日

科 目	金額(千円)
サービス活動増減の部	
サービス活動収益計	4,167,500
サービス活動費用計	4,193,875
サービス活動増減差額	△ 26,375
サービス活動外増減の部	
サービス活動外収益計	19,390
サービス活動外費用計	396
サービス活動外増減差額	18,994
経常増減差額	△ 7,381
特別増減の部	
特別収益計	16,237
特別費用計	15,784
特別増減差額	453
当期活動増減差額	△ 6,928
繰越活動増減差額の部	
前期繰越活動増減差額	6,722,142
当期末繰越活動増減差額	6,715,214
積立金取崩額	435,000
積立金積立額	0
次期繰越活動増減差額	7,150,214

資金収支計算書

自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日

科 目	金額(千円)
事業活動による収支	
事業活動収入計	4,186,819
事業活動支出計	3,849,964
事業活動資金収支差額	336,855
施設整備等による収支	
施設整備等収入計	15,667
施設整備等支出計	434,609
施設整備等資金収支差額	△ 418,942
その他の活動による収支	
その他の活動による収入計	435,000
その他の活動支出計	11,647
その他の活動資金収支差額	423,353
当期資金収支差額合計	341,266
前期末支払資金残高	1,956,769
当期末支払資金残高	2,298,035

・端数処理の関係上、合計額と一致しない場合があります。

令和3年度 苦情解決委員会報告

- 苦情解決委員会・第三者委員に報告すべき苦情はありませんでした。
- 意見・要望について以下のようなものが寄せられ、各施設・事業所にて対応しました。

分類	件数
① ケアの内容に関わる事項	1
② 個人のニーズ（嗜好・選択）に関わる事項	2
③ 環境・設備に関わる事項	0
④ 事務に関わる事項	0
⑤ スタッフの接遇に関わる事項	1
⑥ その他	0
合計	4



社会福祉法人聖家族会のホームページはこちらの QR コードからご覧いただけます。
<https://misakae.or.jp/>